

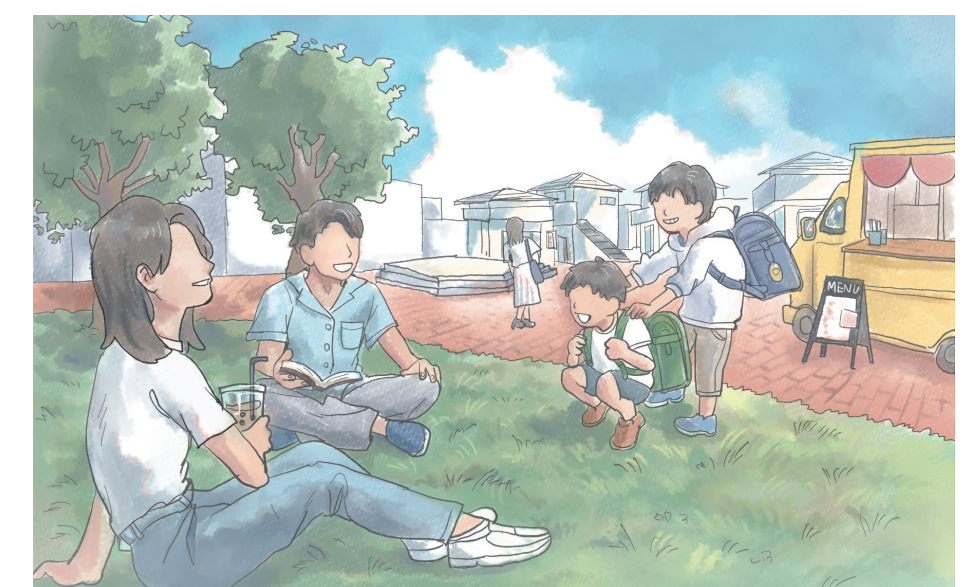
シナプス



7. 配置図・1階平面図 1:600

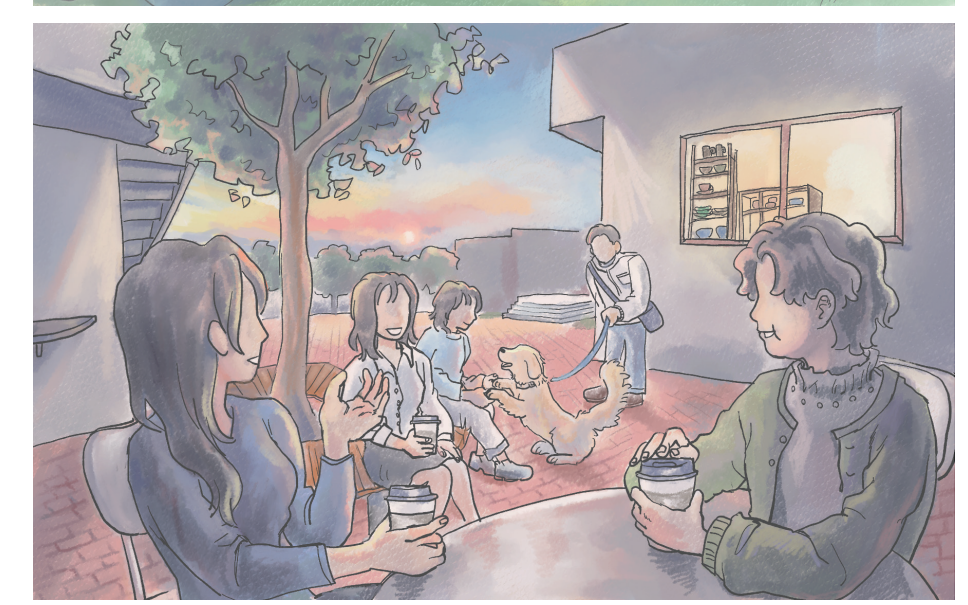


8. アクティビティ



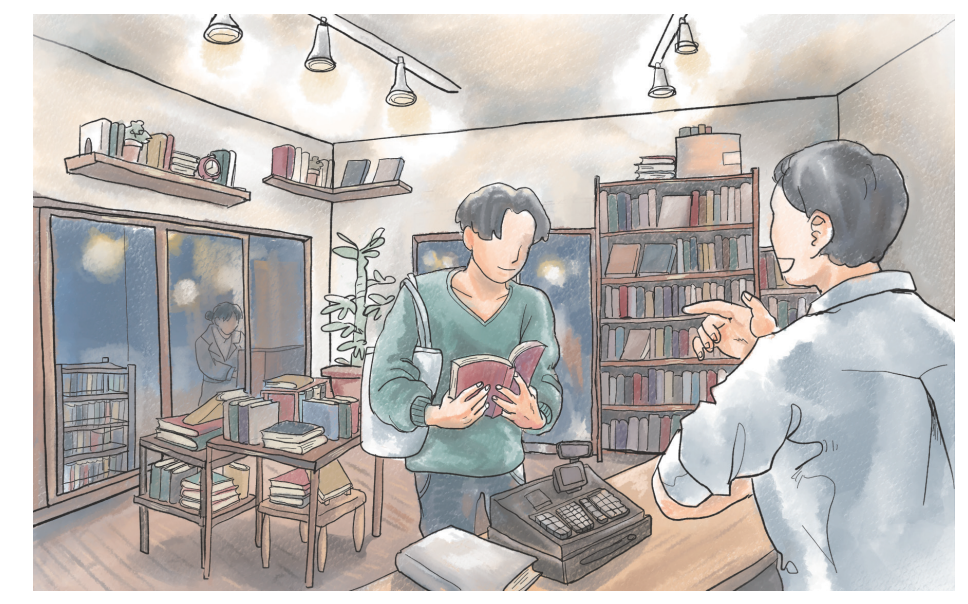
広場から生まれる出会い

大きく開け、見通しの良い広場では、多種多様な人々が混ざり合い、偶発的な交流が創出される。



隙間で生まれる出会い

建物と建物間の不定形な隙間は、人と人の距離を縮め、密接な関わりを促進する。

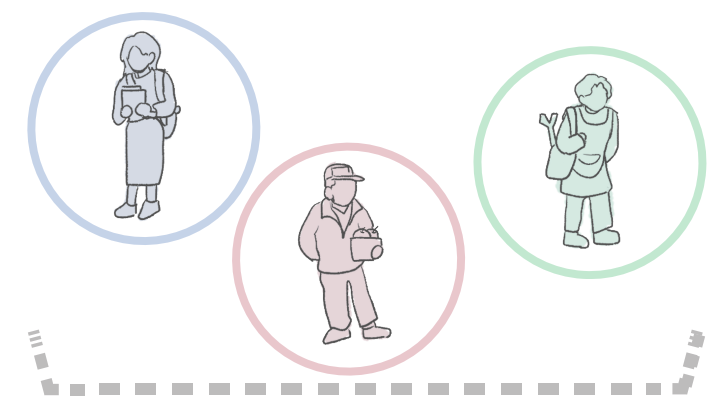


面から生まれる出会い

開口を多面的に設け、店舗の外と接する機会を増やす事により、新たな出会いが生まれる。

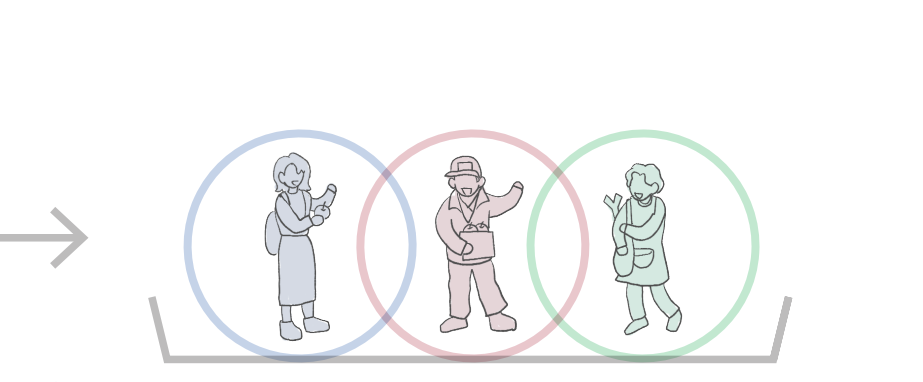
1. 祖師ヶ谷大蔵の現状

祖師ヶ谷大蔵では、長くそこで生活する住民や、一時的にそこを過ごす大学生やサラリーマン、商店街で店を営む人々など、様々な人が暮らしている。しかし、こういった多様な人々が集う場が無い。それ故、彼らはそれぞれの独立したコミュニティの中で生きている。



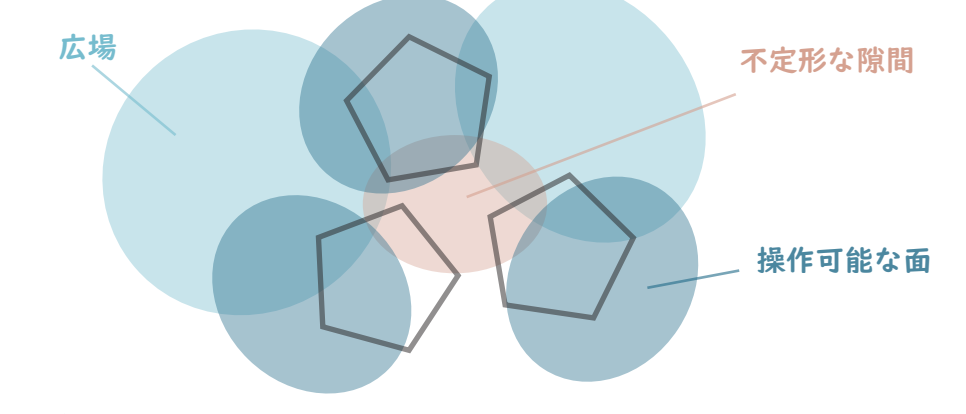
2. コンセプト

GLとは、何かを積み上げるのに必要不可欠な基礎のことだ。祖師ヶ谷大蔵で暮らす人々もそれぞれがGL、自分を構築しているものの根底にある個性を持ち合わせている。これらを自由に表現できる場があれば、それは同じ場所に生きる多様な人を受け止める場となる。私たちは、今までになかった個性の出会いを作り新たな賑わいを創出するための基礎となる場を提案する。



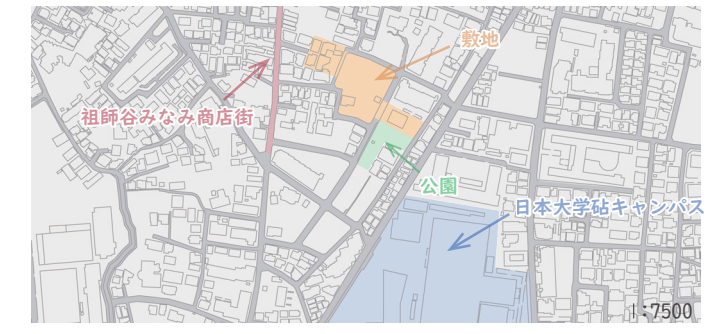
3. 五角形の性質を利用した場の設計

店舗となる建築物の基本形を五角形にすることで生まれる不定形な隙間は、人が滞留する場として適する空間となる。従来の四角形に比べ面が増えるため、面の操作によって交流機会の創出につなげることができる。不定形な隙間の先に見える広場は、往来から滞留まで自由度の高い使われ方ができ、偶発的に新たな交流を生む。



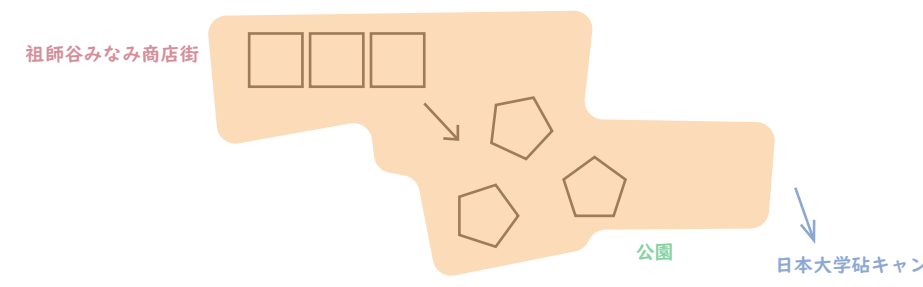
4. 敷地

敷地に選んだ土地は、祖師ヶ谷大蔵駅から日本大学駅キャンパスへの経路と重なる祖師谷みなみ商店街と、近隣住民の交流の場である公園に隣接している。大学と地域の住民、そして商店街をコンセプトの対象としているこの提案で、それら3つすべてにアプローチできるこの土地を敷地とした。



5. 地域との接続

建物の配置と形を考えるにあたって、商店街との繋がり、地域の住民や大学との繋がり2点を重視した。まず、商店街側から中央にかけて商店街特有の圧迫感が晴れるよう店舗の面が道に沿う配置を徐々に崩した。加えて敷地の公園に近い側は、公園と大学へのつながりを感じられるよう建物の密度を下げ、開けた場となるようにした。五角形の其々の空間がゆるやかに繋がり、従来交わることのなかった人々がお互いの気配を感じながら時間を過ごすことができるようになる。



6. 祖師ヶ谷大蔵の基盤として

五角形の建築の大部分を短期間で入れ替わる貸しテナントとして運営する。祖師ヶ谷大蔵の人々が自由に活用することができる環境を整えることで、各個人の持つ多様な個性が表出される。また五角形を活かした建物の配置や操作によって利用者と店員の交流、地域住民の井戸端会議、大学生の読書やカフェ巡りといった人の営み全てを受け止める、大らかな場が創り出される。このような場は人々の相互作用を促し、祖師ヶ谷大蔵における多彩な活動の基盤となる。

